

になろうと努力してくれていたことも大きな力になっていたことも実感いたしました。また、入所施設という24時間の支援体制がある施設の中で「レスパイト」の必要性を強く感じることができました。

支援センターは平成9年の設立から16年あまりが過ぎました。大阪市内で初めての通勤寮の機能を持つ支援機関ということで大きな期待の中でスタートを切った頃のことをなつかしく思い出します。その年月の中で障がい者を取り巻く環境も変わり、昨年より宿泊型自立訓練と短期入所事業へ移行をいたしました。

支援センターも福島育成園と同様に夜間の支援体制があります。施設入所支援とは事業内容が異なるため、支援のあり方がすべて同じというわけではありませんが、地域の方々が安心して暮らしていけるお手伝いをさせていただくためにも、私たちにできること、課せられた役割を認識して支援をさせていただきたいと思っています。

また、福島エリアでも強く感じていたことですが、港エリアでも「高齢化」の問題を切実に実感しています。16年あまりの年月の中で、支援者がいていねいに支援を継続してきたからこそ生まれた新たな課題であると認識をしています。

ケアホームなど地域で暮らす方々の日中活動の場が、当初の「会社で働く」ことから「福祉施設で過ごす」など、活動の場の選択肢が増えています。生活の場も介護の支援へ移行された方もおられ、今後は介護が必要になる方が増えることも想定されます。

就労や地域生活への移行、背中を押す支援だけではなく、それぞれのライフステージに応じて何が必要なのか?見極めることの重さを感じています。

港エリアには「ぼると」という地域の拠点があります。夕方や休日には、地域で暮らす人が顔を出します。

「仕事やめたいねん」「つかれたわ」「お小遣いちょうだい」「病院に行くから一緒にきて」など、毎日いろいろな声が飛び交っています。たわいもない日常の会話の大切さ。そんな日常を大切にすることが継続した支援につながっていくことを実感させられています。

港エリアは、法人の中でも一番多くの支援体制が整っています。生活介護、就労継続B型、生活訓練、就労移行、相談支援、生活・就労支援(西部)。それぞれの機能がより活かせることができるためにも、スタッフとの対話を大切にしながら、統括の角森エリア長のもと、スタッフが一丸となりよりよい支援ができるように頑張っ

て参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ぼるとの機能を最大限に活かして
ほっとスペースぼると
管理者 黒岩 剛史

こんにちは。このたび、「ぼると」の管理者を拝命いたしました黒岩剛史です。よろしく願い致します。

これまで、福島第二育成園(現、福島育成園)、港第二育成園、西部就業生活・支援センターぼるとの支援員として、目の前のケースに向き合うことに集中してきました。ただ、今年度は、管理者ということなので、「ぼると」全体の方向性をまとめたり、事務手続き、運営面にも集中することになり、肩に何かドツとのしかかってくる気持ちで戸惑っております。しかし、40歳を超えた身ですのでそんなことも言っておれません。今年度、黒岩に任せて「ぼると」がいい感じになった、と皆さんに言っていただけるような実践をしていければと思います。

「ぼると」は、障がいがある方の生活面、就労、グループホームの利用の相談など、言わば「暮らしのなんでも相談屋」みたいなところです(限度はございますが)。気軽に利用者が訪れ、おしゃべりしたり、くつろいだり、それでスッキリして帰れるみたいな、癒しや元気をもらえるオアシスみたいなところになればと思っています。皆さま、お気軽に遊びに来て下さい。ユーモアあふれる職員一同、お待ちしております。今後とも、「ほっとスペースぼると」をよろしくお願いいたします。

「ぼると」の強みですが、元々、施設の中でしていた事業を地域に飛び出させて、より地域の利用者に使いやすいようにしたものです。施設から飛び出し、コンパクトになったので他機関や社会資源に連携を求め、動き回ります。他機関とのケース会議も数多く、他機関や社会資源の最新情報もリアルタイムで入ってきます。事務所には3つの部門(生活支援、就労支援、グループホーム)がならんでくっついているので、瞬時に1つのケースに3つ知恵が合わさり、解決策を出せることがあります。異分野の担当者が力を合わせると困難ケースも突破できる可能性が上がります。このような特徴を生かして、今後は情報の収集や伝達、

